

# 文化資料室ニュース

第4号 2008年2月・札幌市文化資料室発行

## 「札幌市の公文書館は何をめざすか」

(講師 鈴江英一氏)の講義から

(総務局行政部総務課 石川義浩)

平成19年8月28日、本市行政部文化資料室において、北海道立文書館の設立に携わり、国文学研究資料館史料館長や北海道教育大学教授を勤められた鈴江英一氏に、「札幌市の公文書館は何をめざすか」をテーマに講義していただいた。その要旨をここで報告する。

\*\*\*\*\*

### 1 アーカイブズとはなにか

アーカイブズは基本的にはその設立母体、いわゆる親機関の公文書を評価選別して、恒常的に移管を受けるといった役割を担い、公文書を保存して活用することによって、現在と後世に対して説明責任を果たすというものである。

わが国には公文書館法と国立公文書館法があるものの、これらの法律の上位に位置づけられる基本法として、公文書が発生した段階から総合的に管理する文書管理法が必要であるということが言われている。

### 2 どのような公文書館をめざすか

アーカイブズを成功させるためには、公文書のライフサイクルの一角にアーカイブズが位置づけられていなければならない。さらに、評価選別にあたっては、公文書の廃棄段階ではなく完結する時点で将来アーカイブズに引き継ぐべき対象であるということをあらかじめ指定する権限をアーカイブズが持つということが必要である。

どのような記録を体系的に収集し保存するかについては、どこの公文書館でも課題となっていることではあるが、市政の中核・中核の記録については、その全てが保存され現在の市政を後世が評価できるような公文書館制度を設計することが必要であり、一方、一見微細な記録であっても時系列的に長い時間幅で保存することにより市政の動向や市民の生活を知ることができるよう

に、アーキビストが選別し保存していくことが必要である。

また、昨年からは総合文書管理システムが稼働しているが、電子化された公文書が削除や書き換えられることなくアーカイブズに引き継がれるように、そのシステムの中に公文書館やアーキビストが関与していくということも重要な課題になる。

さらに、親機関以外の記録である地域資料については、市民の活動の軌跡を独自の価値をもって残しているものであり、収集に当たってどのような原則、方針とするかについても検討が必要となる。

### 3 公文書館実現のために何をなすか

市民の理解を得ていくために、まず、市政のトップが公文書館の必要性や意義を発信することが重要である。

また、市議会においても、公文書館の設置とアーカイブズの機能について十分な議論が尽くされることを期待したい。

人材面においては、専門職員については、長期にわたってアーカイブズに勤務し職務に専念でき、また、館長については、短期間で替わることなく、長期的に館の方針を掲げそれを実現していく指導力が期待されており、それを発揮し得るような体制を構築していくことが必要である。

今後やるべきことは、公文書館に対する市民の理解を得ていくために、市長自らが公文書館の必要性を語っていくことに尽きるのではないかと思う。

\*\*\*\*\*

本講義では、本市の現状を踏まえた貴重な御意見をいただくことができた。本市における公文書館の早期実現に向け、今後の具体的な取組に活かして行きたい。

「小学校卒業 50 年記念のクラス会に向けて、当時の生活や街の様子を振り返る資料を作りたい」という趣旨での来室が時々あります。小学校卒業後ほぼ 50 年、還暦も過ぎて人生の一区切りを迎え、ふと昔のことが懐かしくなるのでしょうか。そんな今から 50 年程前、昭和 30 年代前半の頃の世相のいくつかを新聞資料から拾ってみます。すっかり様変わりしていますが、中にはずっと持ち越している問題もあるようです。

郷土史相談室だより③ ※※※

## 50年前の世相

……新聞見出しから

### 暖房用燃料・ストーブ (昭和 29 年～33 年の記事から)

**燃料 ことしの見通し 安くならぬ石炭 品質選びは困難になりそう 薪は少しずつ値上がり気味**

\* 昨今、灯油価格の暴騰が大きな社会問題となっていますが、主たる燃料の違いはあれ、暖房費の心配は 50 年前においても切実な生活問題でした。

**冬季間 石炭はこんなに使われる** 42 万トンが煙に ばい煙対策委員会で中間報告 (昭和 32 年)

\* 同記事の<ストーブの設備状態>によれば、その内訳は「石炭約 72% (貯炭式 33%・投げ込み式 30%・ルンペン式 5%・粉炭式 3.5%) コークス 4%、薪 18.8%、石油ストーブ 0.8%、残りが草炭、電気、おがくず」となっています。当時の家庭用暖房燃料の主役は石炭だったことが分かります。

**煙筒掃除屋さんがバレード** 秋の火災予防週間 火災の大半が煙筒掃除の不行届き

\* ストーブの煙筒が煤で詰まり、燃えが悪くなったり過熱して燃え出したりするので煙筒掃除をします。これはお父さんの仕事でしたが、煙筒掃除を冬季間の職業としていた人たちもいました。

### 煤煙・大気汚染問題 (昭和 31 年～33 年の記事から)

**汚れているサッポロの空 都心部に多い有毒ガス 市 ばい煙防止に乗り出す まず公害調査から 予想以上にひどいばい煙 ばい煙と病気 死因から関係究明 ひどい煙霧禍の街・札幌 むしばまれる市民 紫外線不足とガスに ばい煙から発ガン物質 最も多い札幌都心**

\* これは数多い関連記事のごく一部ですが、石炭使用が主たる原因の大気汚染、健康被害が注目され始めたことがわかります。その後、煤や有毒ガスの削減については改善されてきてはいるもののエネルギー消費による排出ガスがもたらす環境問題はむしろ一層深刻になってきています。

### すし詰め教室・二部授業 (昭和 32 年の記事から)

**まだまだふえる小、中学生 中学は 37 年が峠 小学校のピークは来年 続く変則授業 ふくれあがる学級数 理想的編成など夢 とてもできぬ学校新設 慢性化しそうな二部授業 55 教室も不足**

\* 当時の 1 学級 50 名の定員をオーバーしても収容しきれない状況から、現在は児童生徒数減に伴う学校規模の適正化の論議が求められる事態になっています。昭和 40 年代は郊外の人口増による新設校ラッシュでしたが、現在空き教室を多く抱え 12 学級維持も難しくなっている学校もあります。

### そのほか

**念願の電燈がつく 藻岩橋たもとの真駒内引揚者部落**(昭和 30 年) \* 都心から 10 キロも離れていないのに電気が行っていなかったとは...(盤渓は 31 年) **荒井山スキーリフト完成**(昭和 31 年) \* 一般用としては札幌初。ところが、平成 12 年には休止される **市立病院本館完成**(昭和 31 年) \* 場所は北 1 条西 8 丁目。平成 7 年には現在地桑園に移転 **〇2 万戸以上足りぬ 住宅人口増に追いつけず**(昭和 32 年) **〇蚊やハエのいない街づくり**(昭和 32 年) **〇飛火の火事なくそう マサ屋根解消に融資制度**(昭和 32 年) など、50 年前の新聞記事を見ていると、このように「へえーっ、そうだったの?」、逆に「その頃からすでに だったのか」と興味深く、今の時代・世相を考える上でも参考になるように思います。

引用した新聞資料は当室所蔵の新聞スクラップで、来室いただきますと閲覧できます。(郷土史相談員 今倉迪夫)

# 調査報告

旧北部軍司令部防空指揮所(札幌市豊平区月寒東2条1丁目)へ調査に行きました。

「旧北部軍司令部防空指揮所」とは太平洋戦争中、旧北部軍管轄の地域(道内、東北4県 - 青森、秋田、岩手、山形 -、樺太、千島、西部アリューシャン)の空・海上を護るために警戒隊などを配置して情報を収集し、参謀が作戦をたて、軍司令官が命令を発した施設です。現存している公式記録では昭和18年12月に落成したとされています。そこには当時の最新鋭機器が充実し、多くの女性が通信隊員として勤務していました。戦後、平成18年



旧北部軍司令部防空指揮所

度まで陸上自衛隊が月寒送信所として使用していましたが、建物の老朽化によりその機能は真駒内に移転し、施設の所有は北海道財務局に移管されました。現在は解体作業中で、その跡には国家公務員宿舎が建設される予定です。



内部

文化資料室では、札幌には数少ない、この貴重な戦争遺跡が解体される前にその実像を解明しようと調査に行きました。当室の他に札幌市文化財課や学識経験者の方々も調査に来られ、すでに電源を取り外され窓も閉め切られた、懐中電灯なしでは目の前も真っ暗な中で検分が行われました。

現在、外壁部分は風化し、中の鉄骨が露出している部分もありますが、コンクリートの外壁は約2㍍と厚く、それは空襲にも耐えうるように造られたからなのだそうです。私を含め多くの戦後生まれの世代は、つい戦争の歴史を忘れてしまいがちです。しかし、実際に戦時中に使用されていた施設を目の当たりにすることは、改めて戦争の実態や戦争に関わったの方々について、考えるきっかけとなるのではないのでしょうか。

この旧北部軍司令部防空室は実物を残すことはできませんが、文化資料室では現在、西田新札幌市史編集員を中心に、聞き取り調査や映像記録などを通して、その情報をできるだけ多く残そうと努力しています。(文化資料室 中村)



鉄骨が露出している外壁

新札幌市史機関誌

## 札幌の歴史

第54号

特集 『新札幌市史』の完結を迎えて

『新札幌市史』の完結を迎えて

回顧と展望 - 『新札幌市史』

『札幌の歴史』を編んで

『新札幌市史 年表編』の編集を振り返って

『新札幌市史 索引編』の編纂を振り返って

研究ノート 明治初期の札幌の教育

『わがまち温故知新』地域住民が資料収集、展示、管理を担う～つきさつ資料館～

資料目録 塩野公平資料

『札幌の歴史』総目次(50号～54号)

**3月10日(月)販売開始!**

文化資料室と市政刊行物コーナー(札幌市役所本庁舎2階)でお買い求めいただけます。

1部400円。

郵送によるご購入については、お問い合わせください。

【お問い合わせ先】

文化資料室(011-521-0205) 市政刊行物コーナー(011-211-2135)

内容に関するお問い合わせは文化資料室までお願いいたします。

# 企画展情報

## 「新札幌市史編纂 27年のあゆみ」展 開催 (平成 20年3月21日～6月30日)

新札幌市史は、3月21日に刊行予定の「年表・索引編」で全8巻10冊が完結します。  
これを記念し、「新札幌市史編纂 27年のあゆみ」と、文化資料室(昭和51年5月発足)  
のこれからの活動についてパネルや資料によってご紹介します。

- 日時■ 文化資料室の開館日・時間(下記「利用のご案内」をご覧ください。)
- 会場■ 文化資料室オープンスペース(札幌市中央区南8条西2丁目 文化資料室2階)



## 写真に見る札幌

昔の写真から札幌の歴史をふり返ってみましょう。今号は札幌市円山動物園の話題です。

右は開園したの頃(昭和26年)の札幌市円山動物園の写真です。写っている動物はオオワシの「パーサン」。当時は



名前がついていなかったようですが、開園から平成14年に亡くなるまでの50年以上もの間、円山動物園を見守り続けました。これは世界最長の飼育記録なのだそうです。

戦後間もない昭和25年、札幌市は上野動物園から移動動物園を招きました。会場の円山公園付近は大変な賑わいで、当時の新聞には「ぐずついた空模様ながら朝からドツと押しかけた小学生たちで大賑い」とあります(北海道新聞 昭和25年7月8日夕刊)。札幌に動物園を設立する計画は23年頃からありましたが、この移動動物園で人々の期待はいつそう高まったことでしょう。

その後、26年5月5日に円山児童遊戯施設が開園、9月に名称を現在の「円山動物園」に変更しました。

当初展示された動物は「パーサン」とつがいのヒグマ「太郎君」と「花子さん」、エゾシカの3種4頭の展示で豆汽

車や電気自動車などの遊具があるだけでした。それでも、左の写真を見ると多くの人が詰めかけていたことがわかります。北海道新聞はこの日「よい子の“最良の日”」という見出しで子ども達の喜びを伝えました。開館当初の円山動物園は、4月末から11月初旬までしか開園することができませんでした。しかし、通年の開館は昭和31年に発行された開館10年記念誌にすでに“将来の構想”として盛り込まれ、「札幌市の子供達に年中通して楽しめる場所を作って喜んでもらおう(20年史より)」と施設整備をすすめ、昭和41年に実現しました。

こうして歴史をたどってみると、時代ごとの子ども達の動物園に対する喜びや期待と、それに応えようという人々の想いを強く感じました。今後とも円山動物園の取組に注目したいと思います。



現在の写真(カバの歯磨き)

(写真提供: 円山動物園)

円山動物園ホームページ <http://www.city.sapporo.jp/zoo/index.html>

## 文化資料室 利用のご案内

開館時間 8:45~17:15 入館料 無料  
 休館日 土・日・祝日・年末年始(12月29日から1月3日)  
 郷土史相談室・札幌の歴史展示室がご利用になれます  
 ご来館の際は公共交通機関でお越しください  
 臨時開館 2月16日、3月15日(土)の14:00~16:00の間、講座開催のため臨時開館しております。



交通アクセス / 東豊線「豊水すすきの」駅下車6・7番出口から徒歩3分、または南北線「中島公園」駅下車1・2番出口から徒歩5分